

連載『健やかほうふ21計画（第二次）』# 17

《特別対談》防府医師会神徳会長に聞く

『命に感謝。一日一日を大切に』

9月は『健康増進普及月間』です。毎日健康に自分らしく過ごすため、私たちが心がけるべきことについて、防府医師会 神徳眞也会長にお話を聞きました。

（聞き手〓防府市健康福祉部次長兼健康増進課長 工藤）

◆防府市の「健康」状況

（工藤） 防府市が平成29年度に策定した『健やかほうふ21（第二次）計画』では、若い世代において「朝食を食べていない人」や「喫煙率が約4割（30代男性）」であること、また、「がん検診を受診しない人」が多く見られます。

市民の方に、健康についての関心をもっと高めていただきたいと考えていますが、防府市の「健康」に関する状況について、どのように思われますか。

（神徳会長） 喫煙に関しては、若い世代の高い喫煙率が目立ちますね。

（工藤） 市内における若年層…特に子育て世代の喫煙については、男性だけでなく、出産後に喫煙を再開されるお母さんが多いこともわかっています。

(神徳会長) 50〜60代を過ぎて、ご自身の病気などをきっかけに、たばこをやめる人が増えていきます。本当は、もっと早い段階からたばこをやめて頂きたいな、と思います。

(工藤) がん検診の受診率については、いかがでしょうか。

(神徳会長) がん検診については、全国的に見て、山口県・広島県の受診率が極端に低い状況にあります。

(工藤) 防府市は、山口県内でも他市に比べて受診率が低いのが課題です。

(神徳会長) 私も5年前から「がんの撲滅」に関する運動をしていますが、なかなか周知が難しく、成果が上がっていません。

一般的に、ご高齢の方の中で、「医療機関を全く受診していない」という方は少ないです。



(神徳会長) そうした方々は、「日頃から診てもらっているから安心だ」と思うのではなく、ご自身の身体の状況をよく主治医と話し合い、積極的にがん検診を受診して頂きたいですね。

また、検診を受けられた方に関しては、精密検査を受けて早期に適切な治療を受けて頂きたいです。

(工藤) 市民の皆さんにとって、自分の身体のこと、健康のことを見つめ直す一つの『きっかけ』としても、検診を利用して頂きたいですね。

また、日頃から自分の身体を親身に診療頂いている主治医の先生から検診を勧めて頂くことで、市民の皆さんの意識も変わるかもしれませんね。

◆「健康」に過ごすために

(工藤) 神徳会長は、現在も医療現場の最前線で、市民の皆さんを診療されています。大変お忙しい生活の中で、「健康」に過ごすため、どのようなことを心がけていらっしゃるでしょうか。

(神徳会長) いつも「ありがとう」という感謝の気持ちを持つこと、そして、それを言葉にすることで、自分の考えや思い込みだけではなく、「もっとこうしたほうが良いよ」とか、「こんな考え方もあるよ」と、常に周りの人から助言を頂ける、支え合えるような人でありたいと心がけています。

◆市民の方へのメッセージ

(神徳会長) 先に述べたことと少し重複しますが、日頃から、何かあったら気軽に相談できるお医者さん―かかりつけ医―を持つておくとうれしいですね。

自分の身体の様子を、日頃からかかりつけ医に相談することを習慣づけ、毎日を健康に過ごして頂きたいですね。

そうすることで、様々な病気の早期発見や、早いうちに適切な医療機関の紹介に繋げることも可能となります。

私たちの今ある命は、正に『奇跡』のようなものだと思えます。一日一日を大切に、命に感謝して生活していきたいですね。



防府医師会
神徳 真也 会長

平成4年から医療法人 神徳会 三田尻病院院長を務め、平成22年に同病院理事長に就任。現在も医療の現場で市民の診察・治療にあたる。

平成26年5月から防府医師会会長に就任。

座右の銘は『**醫は終生** 學を廢すべからず』。

問 健やかほうふ21計画(第二次)推進委員会事務局
【市保健センター・☎24-2161】